



小林市立小林小学校

校長通信

令和6年9月13日

第55号

(文責 校長 吉井秀一)

TEL: (0984) 23-3510

E-mail:1401eb@miyazaki-c.ed.jp

夏休み明け早々に台風の

襲来を受けました。動きの読めない台風10号は直前に宮崎を直撃するコースに入り、大きな被害をもたらしました。特に、今回竜巻と思われる突風の威力には恐怖を感じました。被災された方々には心よりお見舞いを申し上げます。学校も、三日も休業となるような異例の動きをした台風でしたが、今後このような災害は、珍しいことであってほしいものです。

街では特定の品物がなくなるなど混乱があり、私も、コンビニやスーパーの棚に商品が並んでいないことに驚きました。普段どれだけ「自由なく」物に恵まれているかを思い知らされ、日頃の備えができていなかったと反省しました。

被害は大きな代償となりましたが、次への学びとして肝に命じたいと思います。

次代に生きる子どもたち

休日に、スマホを片手に下を向いたまま建物の隅っこに座り込んでいる子どもたちを見ると、少し前までは「ほかにすることは無いの?」という立ちさえ感じていました。そんな感覚だった私も、少し免疫ができてたらく、「今の時代では仕方ないのか。」と落ち着いて眺めるようになりました。

しかし、先日見かけた光景には驚きました。子どもを乗せるシヨッピングカートに二歳ぐらいの女の子、その子は、大きな目をまるく見開いて一点を見ています。そのカートの後ろで立ち乗りしているのはお兄ちゃん。お兄ちゃんは下を向いていて表情が見えませんが、一台のカートに二つの子どもの頭がタテに並んでいたのを目に留まったのですが、もうひとつ、きれいにタテに並んでいたもの。それが、二人の手の中のスマホだったので。

「こんな光景がもう普通なのか?」と改めて衝撃を覚え、これからの教育はどうなるんだらう?と考えるきっかけになりました。

夏休みの研修で「AI教材」の開発者の話を聞く機会がありました。話によると、ICTの世界は、今後ますます進化のスピードを速め、今から二十年後には「AIがAIを創り出す世界」が待っているそうです。無人走行車、農業ロボット、アバター接客、AI診断…。少し前まで想像(空想?)の世界だったものが、今は実用化されています。

学校でも黒板、チョーク、大きな三角定規…いつまで教室に残るかわかりません。「自由進度」で進む学習には一斉の定期テストも不要です。

子どもたちが大人になって見る未来は、今は違う景色になっているのでしょうか。

では、学校の学習には何が残るのでしょうか。

膨大な情報と蓄積された知識から問題に合った内容を即座に探し出し、関連する答えを選んでつなぎ合わせる…。ここまでは既にAIがやってくれます。

すると残るのは、何が問題なのか、何を解決しないといけないのかという課題意識や意欲。そして分かった内容を伝える表現力でしょうか。

子どもが安心してできる環境をつくり、身の回りの様々なことに興味関心を広げ、課題を自分から見つけ出す「主体性」や、相手のことを考えながら「伝え合う力」を育てていくことが未来の学校の役割なのかもしれません。

じつと座って机に向っているのではなく、目を輝かせて様々な発見や体験をしながら、豊かに自己表現する生き生きとした子どもたちの姿が見えてくる感じがします。

感染予防を続けましょう 前号と同じタイトルとなりましたが、今、宮崎県においてコロナの感染者も少なくありません。一番の予防策は手洗いです。ご家庭でも声掛けをお願いします。

【参考】

宮崎県では今回大きな地震や台風災害を経験しました。そこで、災害が発生した際の子どもたちの心のケアについて専門家がまとめた資料が届きました。

災害発生時に限らず、日頃の子どもの変化に気付く視点として参考になります。

「いつもとちよつとちがう?」と思ったら、何らかのアクションが大切です。

学校でも家庭でも、私たち大人が協力して子どもを見守りましょう。

1 子どもたちに現れる反応の例

<p>○身体的反応</p> <ul style="list-style-type: none">・食欲がない・頭痛や腹痛、体のだるさを訴える・「胸がドキドキする」「息苦しい」と訴える・寝つきが悪く夜中に目を覚ます、怖い夢を見る	<p>○情緒的反応</p> <ul style="list-style-type: none">・いつもに比べて元気がない、不安そうにしている・いつもよりはしゃいでいる、テンションが高い・なんとなくビクビクしている・感情が不安定になっている・ちょっとしたことでもすぐに怒り出す・自分を責める・ぼんやりしていることがある、勉強に集中できない
<p>○出来事に関係するような反応</p> <ul style="list-style-type: none">・出来事のことをしきりに話題にする、または全く話そうとしない・テレビ等のニュースを見るのを嫌がる	<p>○対人的反応</p> <ul style="list-style-type: none">・誰とも話をしようとしめない・一人であることを怖がる、または嫌がる・保護者と一緒にいたがる、そばから離れようとしめない

2 心がけていただくとよいこと

- ・ 子どもたちの状態にあわてず、落ち着いて対応してください。
- ・ 子どもが話してきたときには、さえぎらずに最後まで話を聞いてください。
- ・ 子どもが自分を責めるような言葉を口にしたときには、十分に受け止めてください。
- ・ 子どもが話したがらないときには、無理に聞き出そうとせず見守ってください。
- ・ 「早く乗り越えなさい」と言わず、子どものペースで落ち着いていくことを見守ってください。
- ・ 身体の不調を訴えたときには、無理をさせず、ゆっくり休ませてください。
- ・ 怖い夢を見る、夜中に目を覚ましたときには、安心させてください。
- ・ 保護者のそばから離れない、一緒に寝たがる場合には、年齢に関係なく、そばで一緒に過ごしてください。
- ・ 「話をすることで楽になるよ。いつでも話をしてほしい。相談に乗るよ」と穏やかに伝えてください。
- ・ いつも以上に甘える場合は、子どもが満足するまでスキンシップをとってください。

これらは、大きな心理的ショックにより起こる子どもの自然な反応で、異常なことではありません。

しかし、御家庭で子どもの様子に心配を感じる時や、それが長く続く場合には、御遠慮なく学校に御相談ください。

「宮崎県学校緊急支援プログラムより」

学校では夏休みにこのようなポスターをつくりました

